

平成20年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績



HIV感染者・AIDS患者の発生動向

- ・平成20年、東京都に新たに報告されたHIV感染者とAIDS患者数は545件となり、過去最多となった。
- ・全国の報告数に占める東京都の割合は、HIV感染者で約40%、AIDS患者は約25%であった。
- ・国籍別、性別のHIV感染者とAIDS患者報告数をみると、日本国籍男性が増加しており全体の約90%を占めている。
- ・推定感染経路別のHIV感染者とAIDS患者報告数をみると、性的接触が約90%を占め、同性間性的接触による感染が増加している。
- ・年齢別にみると、HIV感染者報告数は20歳代と30歳代が多く、AIDS患者報告数は、30歳代以上に多い。
- ・推定感染地域をみると国内が多く、増加している。
- ・ニューモシスティス肺炎の発症を契機とするAIDS患者報告が多く、AIDS患者報告数の半数以上を占めている。



相談・検査・療養体制

- ・平成20年、東京都のエイズ電話相談件数は、都内保健所は増加したが、「東京都エイズ電話相談」は若干減少した。
- ・「東京都エイズ電話相談」の相談者は男性が多く、20歳代と30歳代が多い。相談内容は、感染不安や感染経路に関するものが多い。
- ・都内保健所のHIV検査件数は、ここ数年増加している。
- ・平成20年、東京都南新宿検査・相談室の陽性率は減少したが、都内保健所の陽性率は前年度と同程度であった。
- ・免疫機能障害による障害者手帳の交付数は増加し、HIV感染者とAIDS患者の累積報告数の半数以上を占めている。
- ・梅毒の陽性(STS)率は男性で高く、クラミジアは女性で高い。

本「AIDS News Letter No.125(資料編)」は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、東京都に平成20年に法定報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。

なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。

図表中では、平成をH、平成元年をH1、東京都南新宿検査・相談室を南新宿と記載した。平成19年度4月より八王子保健所は八王子市保健所となったが、経年比較をするため従来の都保健所に含めて計上している。また、特別区保健所、八王子市保健所と東京都保健所を合わせて、都内保健所と表現した。

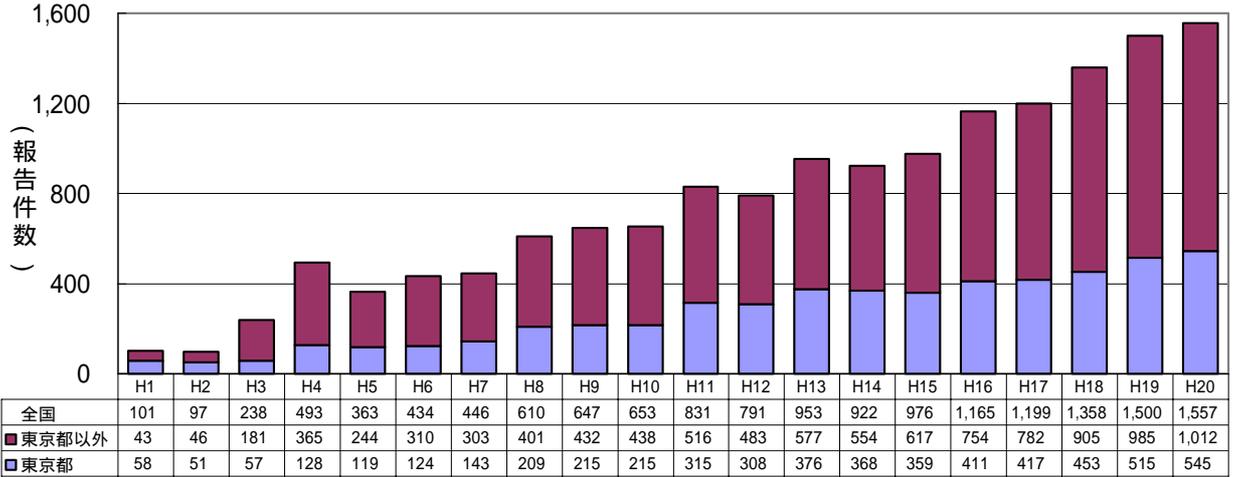
目 次

HIV感染者及びAIDS患者の発生動向			
P.3	1-1	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都と全国の報告数年次推移
	1-2	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染経路別報告数年次推移
	1-3	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の推定感染地別報告数年次推移
P.4	1-4	HIV感染者とAIDS患者の総計	東京都の国籍別・性別報告数年次推移
	1-5	HIV感染者とAIDS患者	東京都のHIV感染者とAIDS患者の報告数年次推移
	1-6	HIV感染者とAIDS患者	全国のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
P.5	1-7	HIV感染者とAIDS患者	東京都以外のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移
	1-8	HIV感染者	全国に占める東京都のHIV感染者報告数割合年次推移
	1-9	HIV感染者	東京都のHIV感染者の国籍別・性別報告数年次推移
P.6	1-10	HIV感染者	東京都のHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-11	HIV感染者	東京都の日本国籍男性におけるHIV感染者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-12	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別・推定感染経路別報告数（平成20年）
P.7	1-13	HIV感染者	東京都のHIV感染者の年齢別報告数年次推移
	1-14	AIDS患者	全国に占める東京都のAIDS患者報告数割合年次推移
	1-15	AIDS患者	東京都のAIDS患者の国籍別・性別報告数年次推移
P.8	1-16	AIDS患者	東京都のAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-17	AIDS患者	東京都の日本国籍男性におけるAIDS患者の推定感染経路別報告数年次推移
	1-18	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別・推定感染経路別報告数（平成20年）
P.9	1-19	AIDS患者	東京都のAIDS患者の年齢別報告数年次推移
	1-20	AIDS患者	東京都のAIDS指標疾患（平成20年）
相談・検査・療養体制			
P.10	2-1	エイズ電話相談	東京都のエイズ電話相談件数年次推移
	2-2	エイズ電話相談	「東京都エイズ電話相談」における相談者の性別（平成20年）
	2-3	エイズ電話相談	「東京都エイズ電話相談」における相談者の年齢（平成20年）
P.11	2-4	エイズ電話相談	「東京都のエイズ電話相談」の相談内容（平成20年）
	2-5	HIV検査	東京都のHIV検査件数年次推移
P.12	2-6	HIV検査	東京都のHIV検査における陽性件数・陽性率年次推移
	2-7	医療機関	東京都のHIV感染者報告の届出別割合（平成16年～平成20年）
P.13	2-8	身体障害者手帳	東京都のHIV感染者・AIDS患者累積報告数と身体障害者手帳（免疫機能障害）交付数年次推移
	2-9	性感染症検査	東京都内の保健所、東京都南新宿検査・相談室での性感染症検査件数と陽性件数（平成20年）
世界及び全国のHIV感染者・AIDS患者数			
P.13	世界のHIV/AIDS流行状況2007年末現在（UNAIDS/WHO）		
	日本のHIV感染者、AIDS患者累計数2008年末現在（厚生労働省）		

1. HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

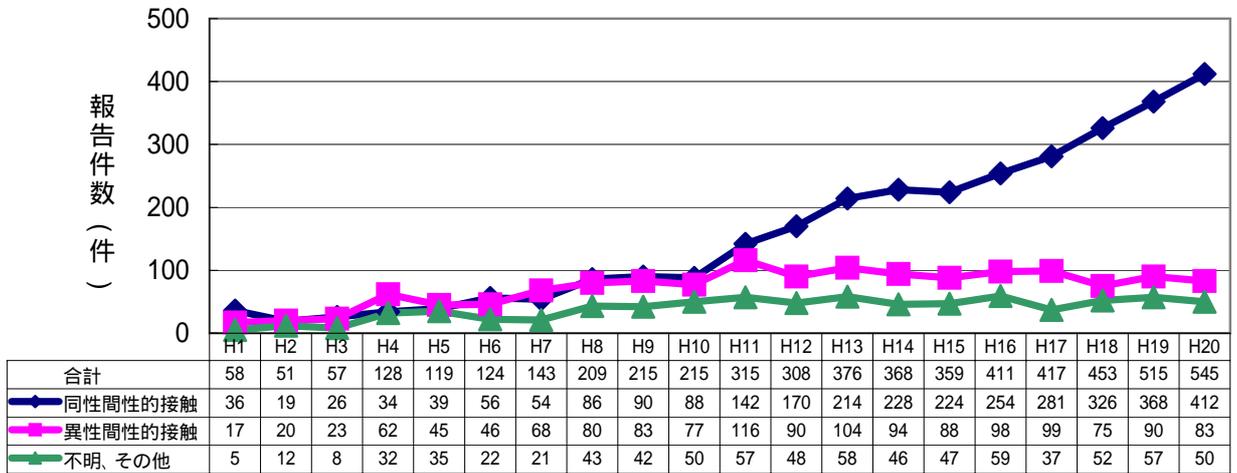
[HIV感染者とAIDS患者の総計 (HIV + AIDS)]

1-1
東京都と全国の報告数
年次推移



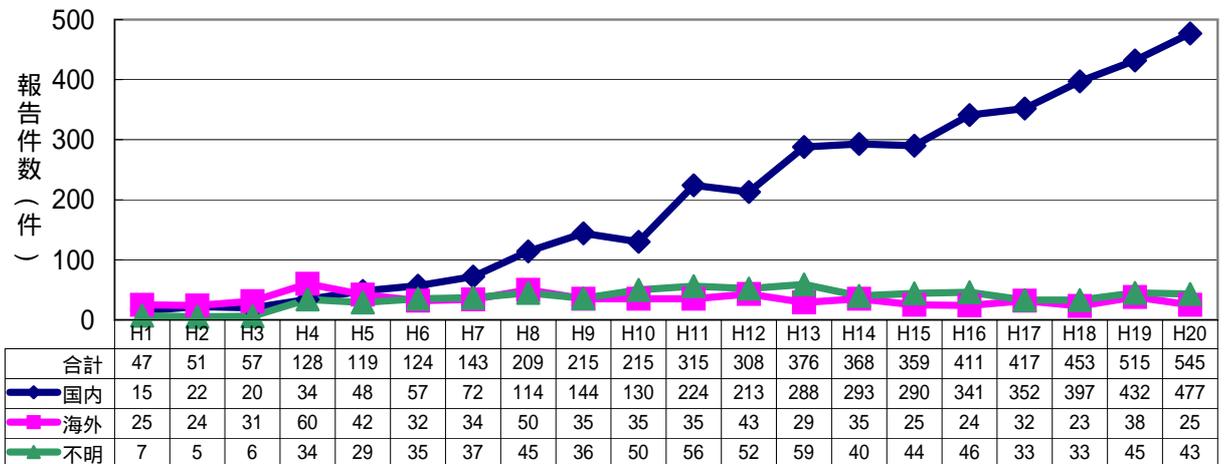
東京都、東京都以外とも報告件数が増加した。全国で見ると、5年連続で1,000件を超え平成20年は過去最多となった。

1-2
東京都の推定感染経路別報告数
年次推移



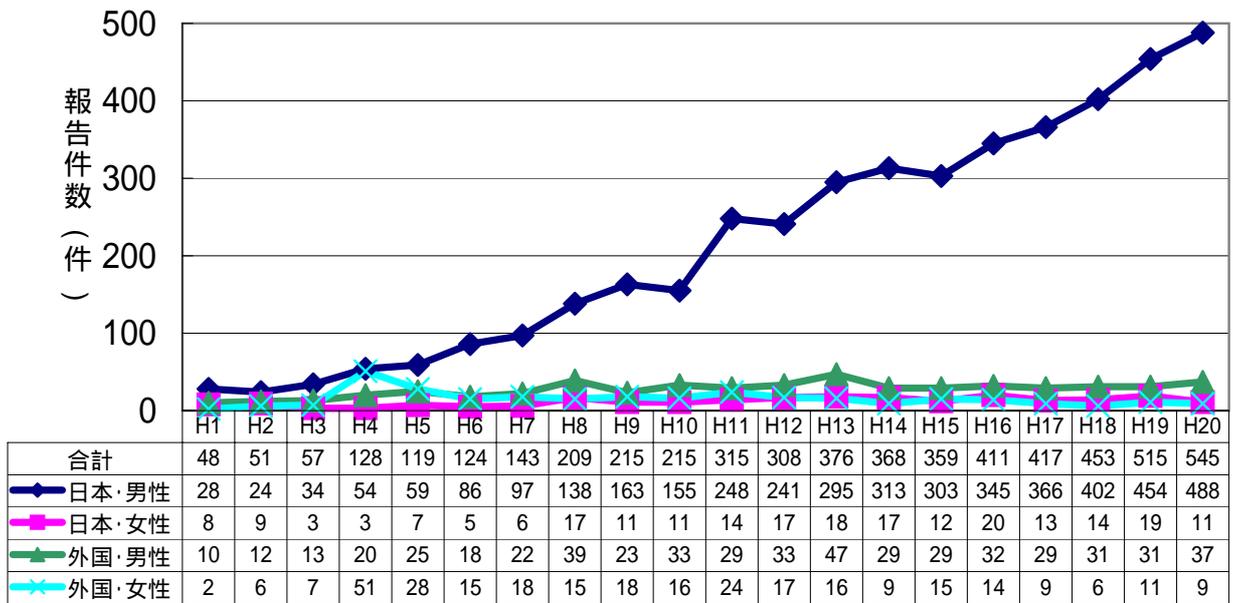
同性間性的接触による報告数は年々増加しており、平成20年は過去最多となった。異性間性的接触は、この数年は横ばい傾向となっている。

1-3
東京都の推定感染地別報告数
年次推移



国内の推定感染地報告が年々増加している。海外の推定感染地報告はこの数年、横ばい傾向となっている。

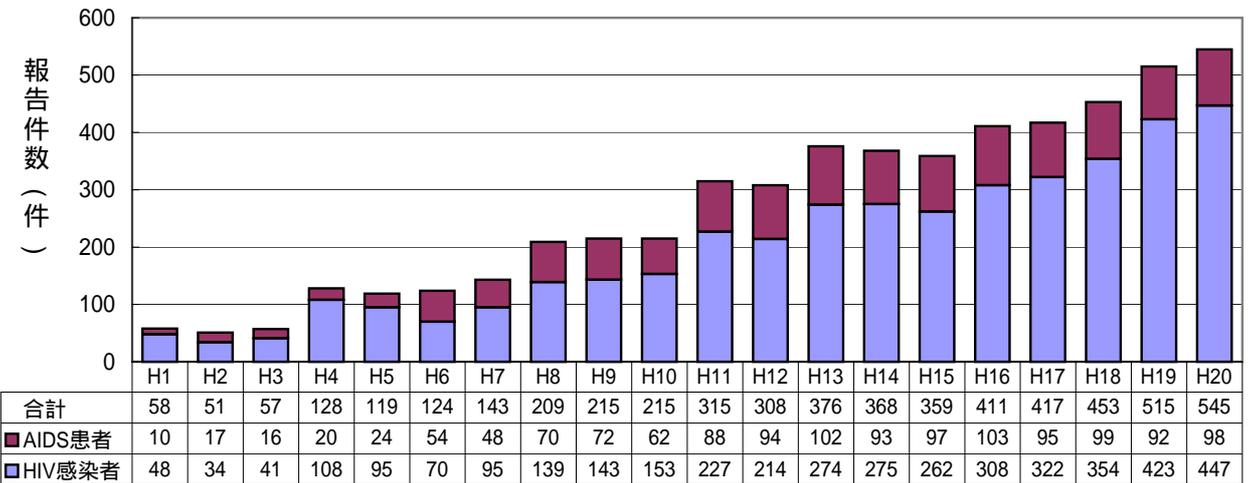
1-4
東京都の国籍別・性別報告数年次推移



日本国籍男性の報告数が年々増加している。それ以外は横ばい傾向となっている。

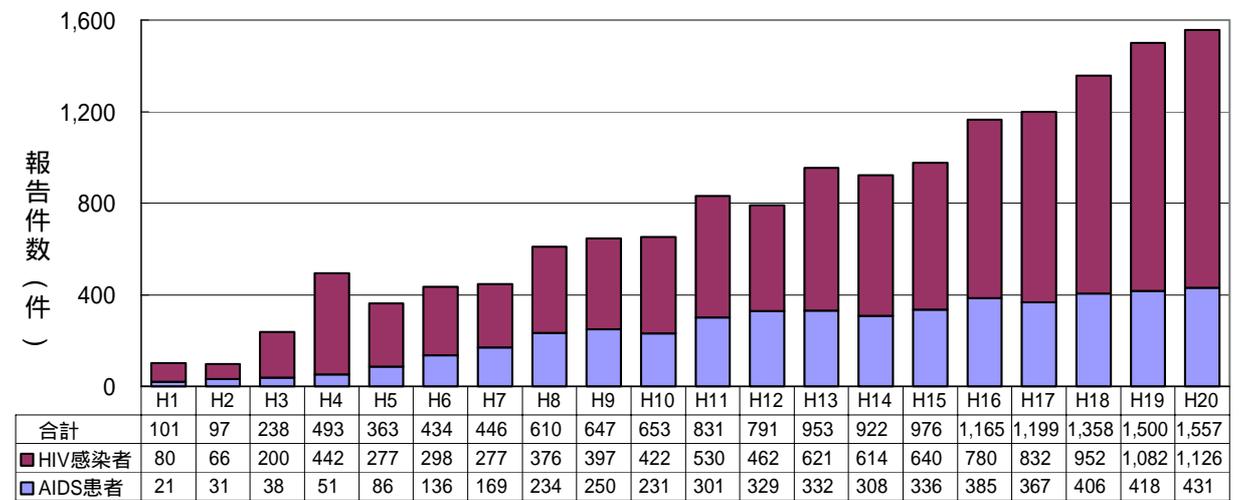
[HIV感染者とAIDS患者 (HIV/AIDS)]

1-5
東京都のHIV感染者とAIDS患者の報告数年次推移



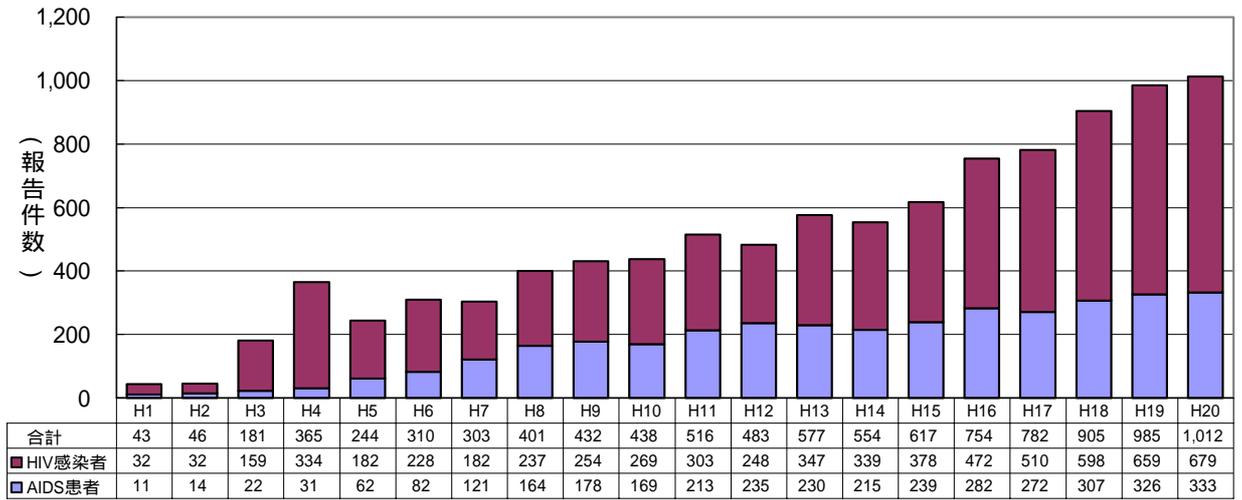
平成20年、東京都においてHIV感染者報告数は過去最多となった。AIDS患者報告数はこの数年横ばい傾向となっている。

1-6
全国のHIV感染者とAIDS患者報告数年次推移



平成20年、全国においてHIV感染者報告数は過去最多となった。AIDS患者報告数はやや増加傾向となっている。

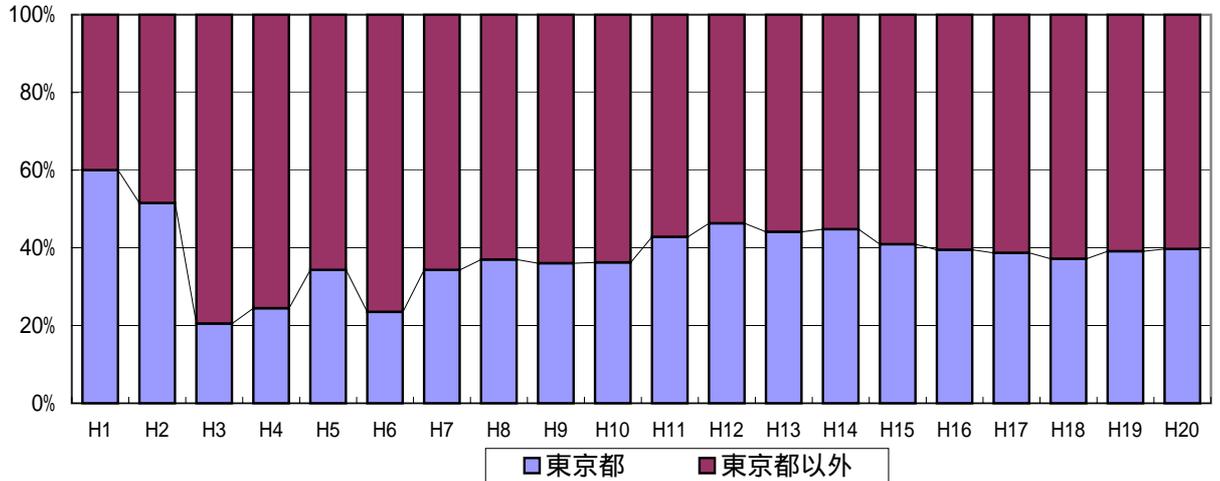
1-7
東京都以外の
HIV感染者とAIDS患者
報告数年
次推移



平成20年、東京都以外においては、HIV感染者、AIDS患者報告数ともに過去最多となった。

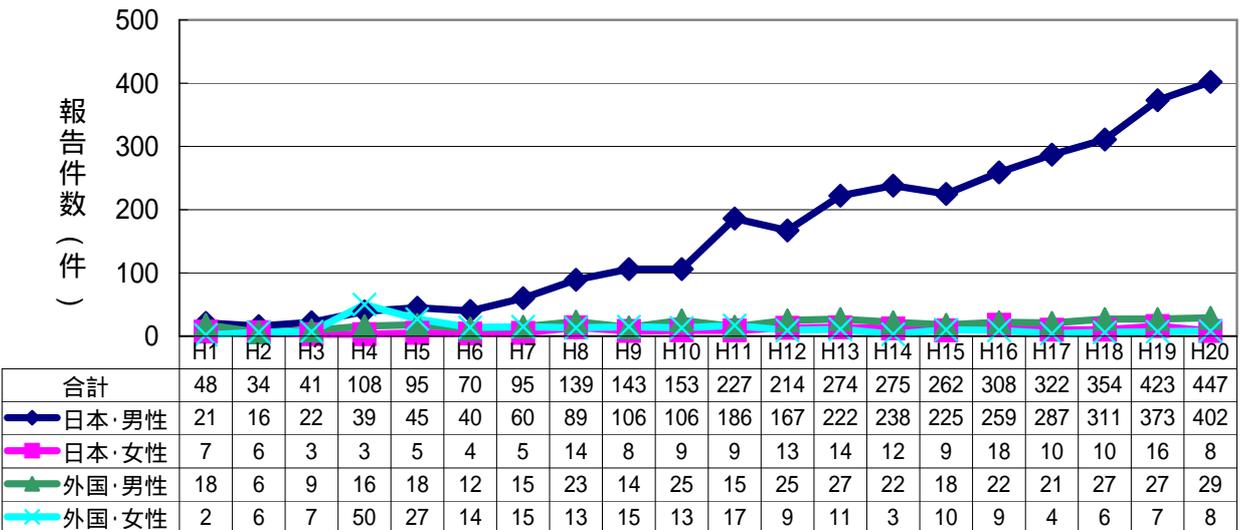
[HIV感染者 (HIV)]

1-8
全国に占める
東京都の
HIV感染者
報告数割合
年次推移



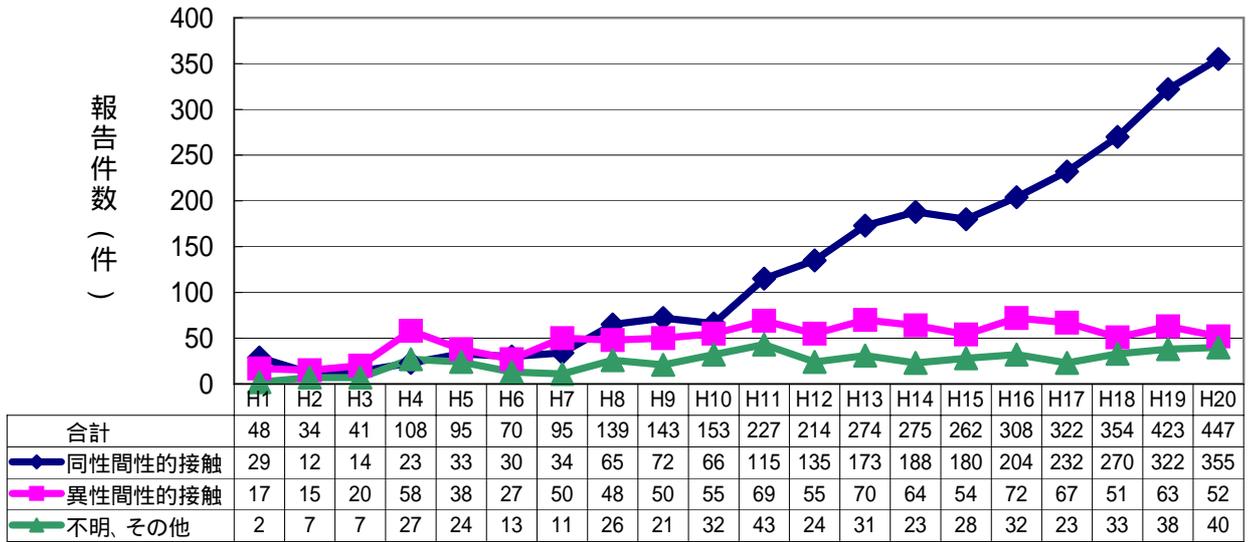
東京都のHIV感染者報告数は、この数年全国の約4割で推移している。

1-9
東京都の
HIV感染者の
国籍別・
性別報告数
年次推移



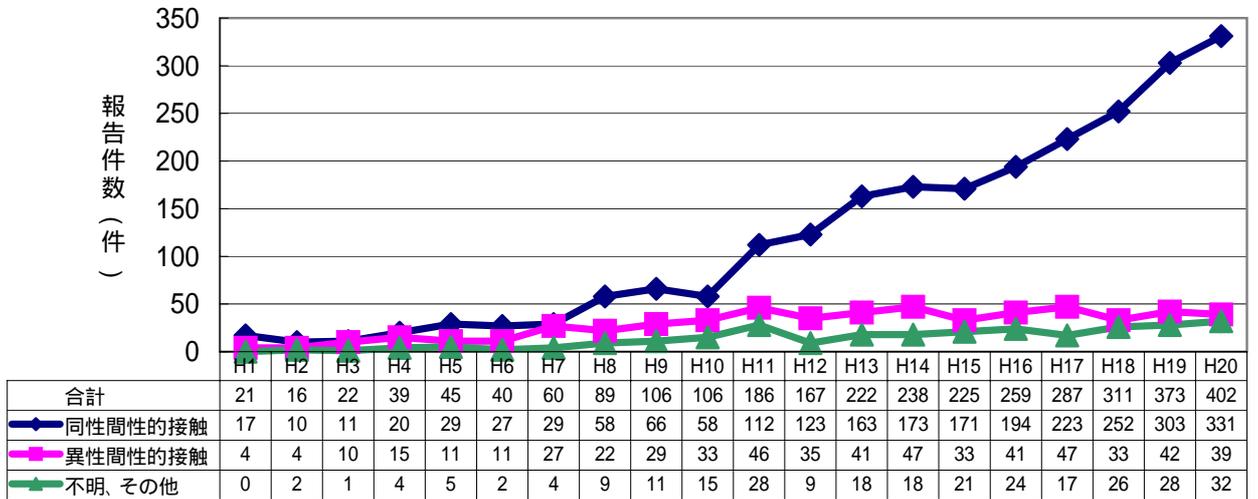
平成12年以降、日本国籍男性の報告数が増加している。

1-10
東京都の
HIV感染者
の推定感染
経路別報告
数年次推移



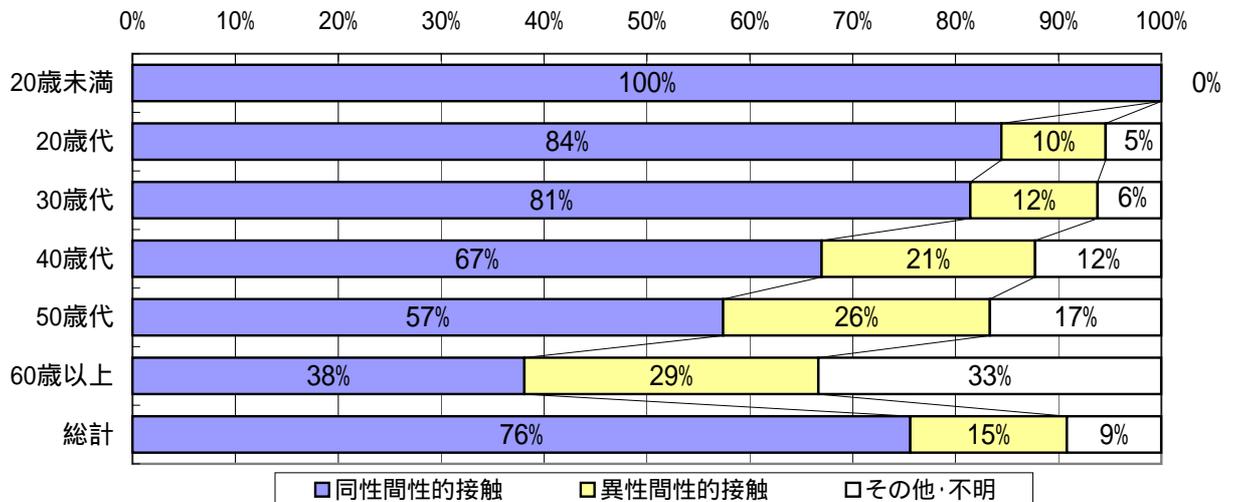
同性間性的接触による報告数が増加している。異性間性的接触の報告数はこの数年は横ばい傾向となっている。

1-11
東京都の日本国籍男性
における
HIV感染者
の推定感染
経路別報告
数年次推移



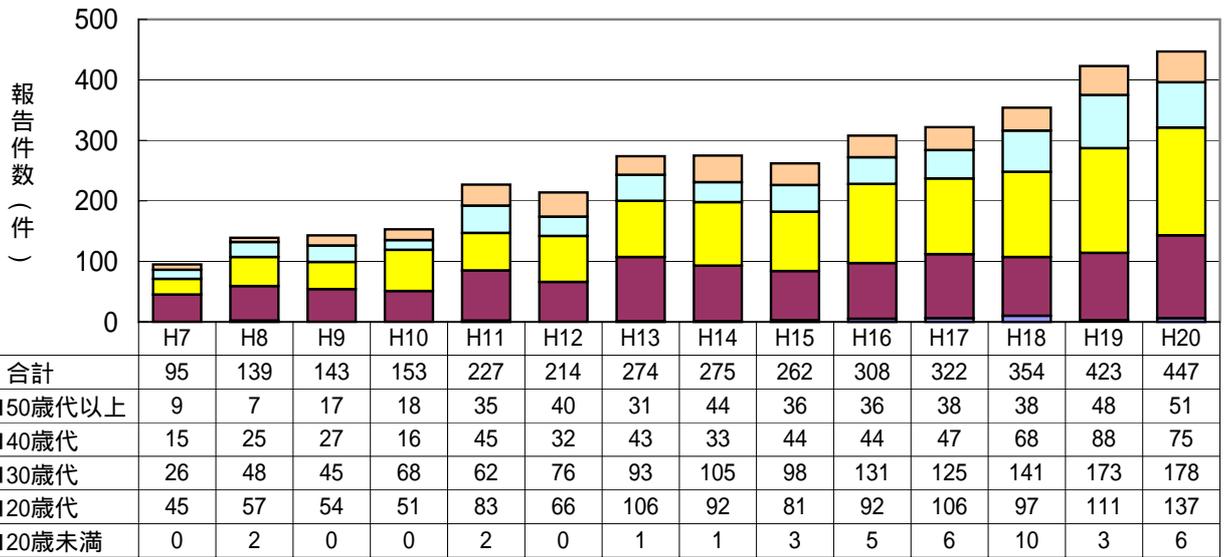
報告数が増加している日本国籍男性でみると、特に平成11年から同性間性的接触による感染が増加している。一方、異性間性的接触による感染はこの数年は横ばい傾向となっている。

1-12
東京都の
HIV感染者
の年齢別・
推定感染経
路別報告数
(平成20年)



年代が高くなるにつれ、同性間性的接触による感染の割合が低くなる。

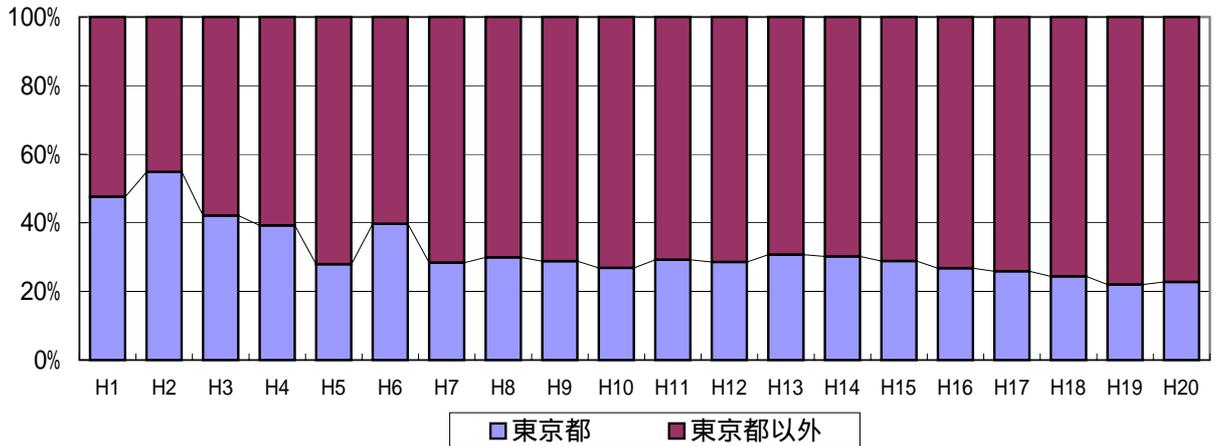
1-13
東京都の
HIV感染者
の年齢別報
告数年次推
移



平成20年は、特に20歳代で報告件数が増加した。40歳代ではやや減少した。

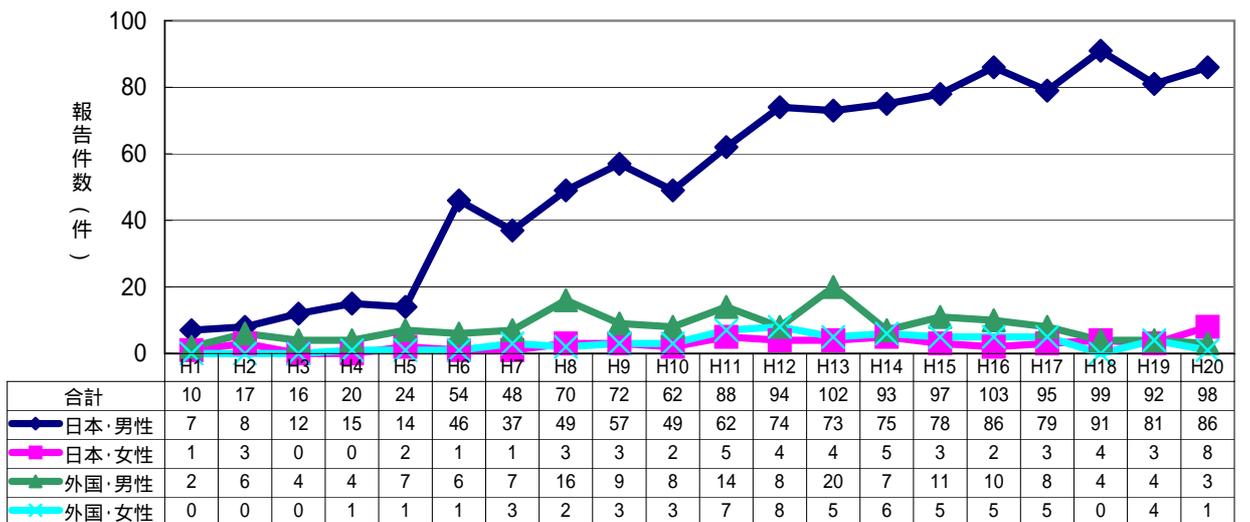
[AIDS患者 (AIDS)]

1-14
全国に占め
る東京都の
AIDS患者報
告数割合年
次推移



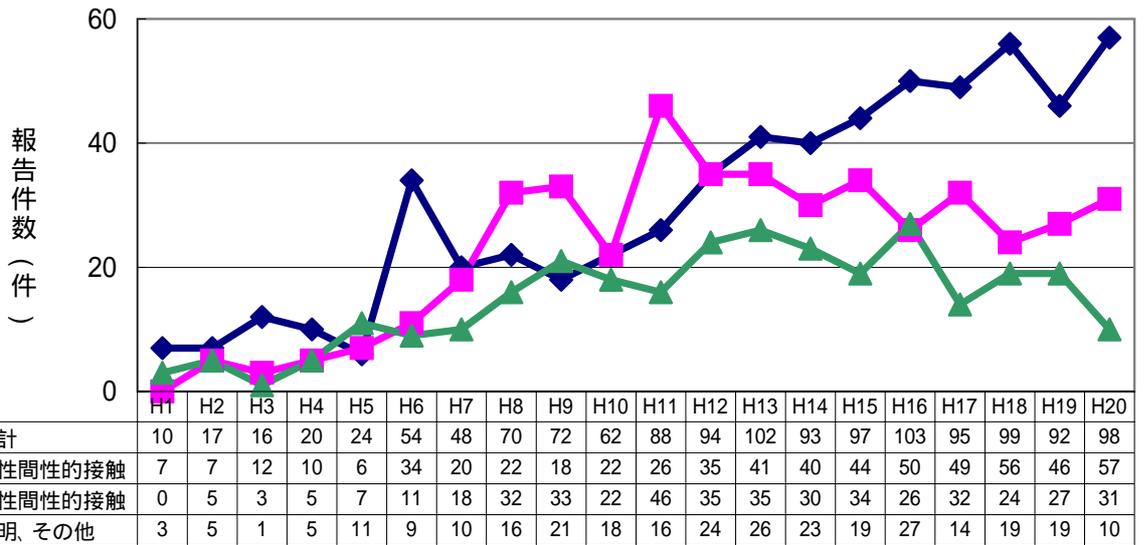
東京都のAIDS患者報告数は全国の約4分の1で推移しており、全国に対する割合はこの数年減少傾向となっている。

1-15
東京都の
AIDS患者の
国籍別・性
別報告数年
次推移



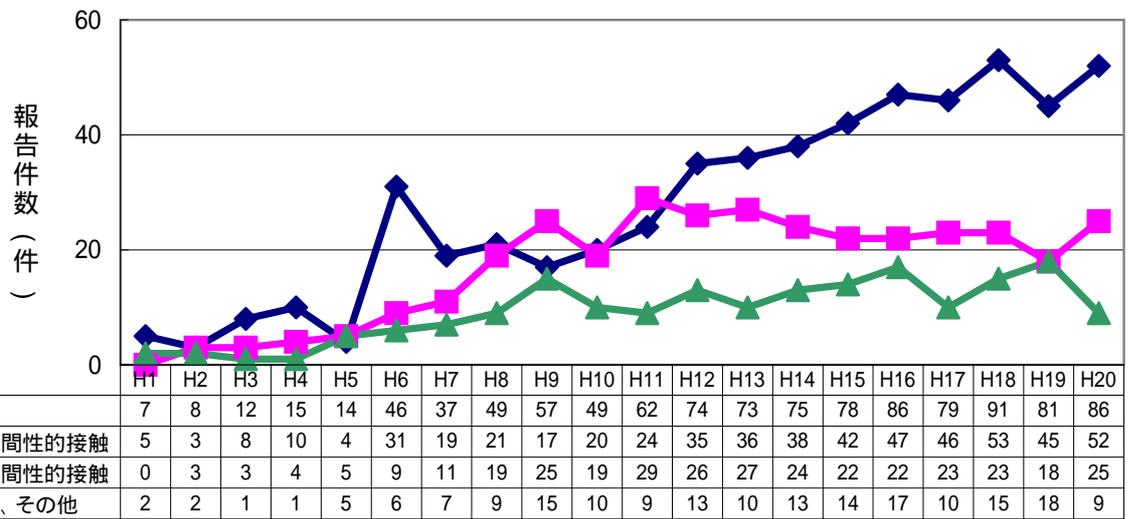
日本国籍男性で平成7年以降、報告数が増加傾向である。日本国籍女性や外国国籍では、大きな変化はない。

1-16
東京都の
AIDS患者の
推定感染経
路別報告数
年次推移



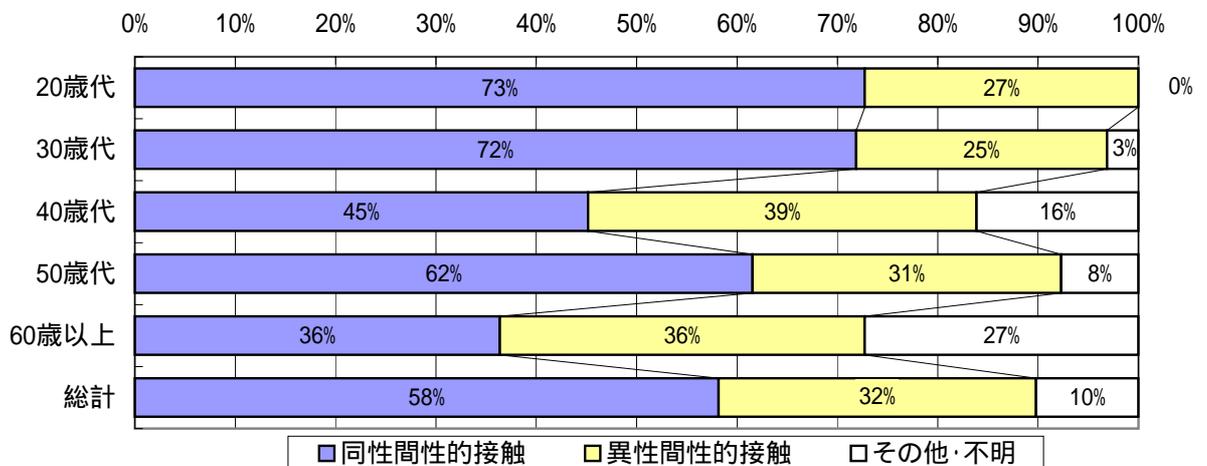
平成13年以降、同性間性的接触による報告数が異性間性的接触によるものを上回っている。

1-17
東京都の日本国籍男性
における
AIDS患者の
推定感染経
路別報告数
年次推移



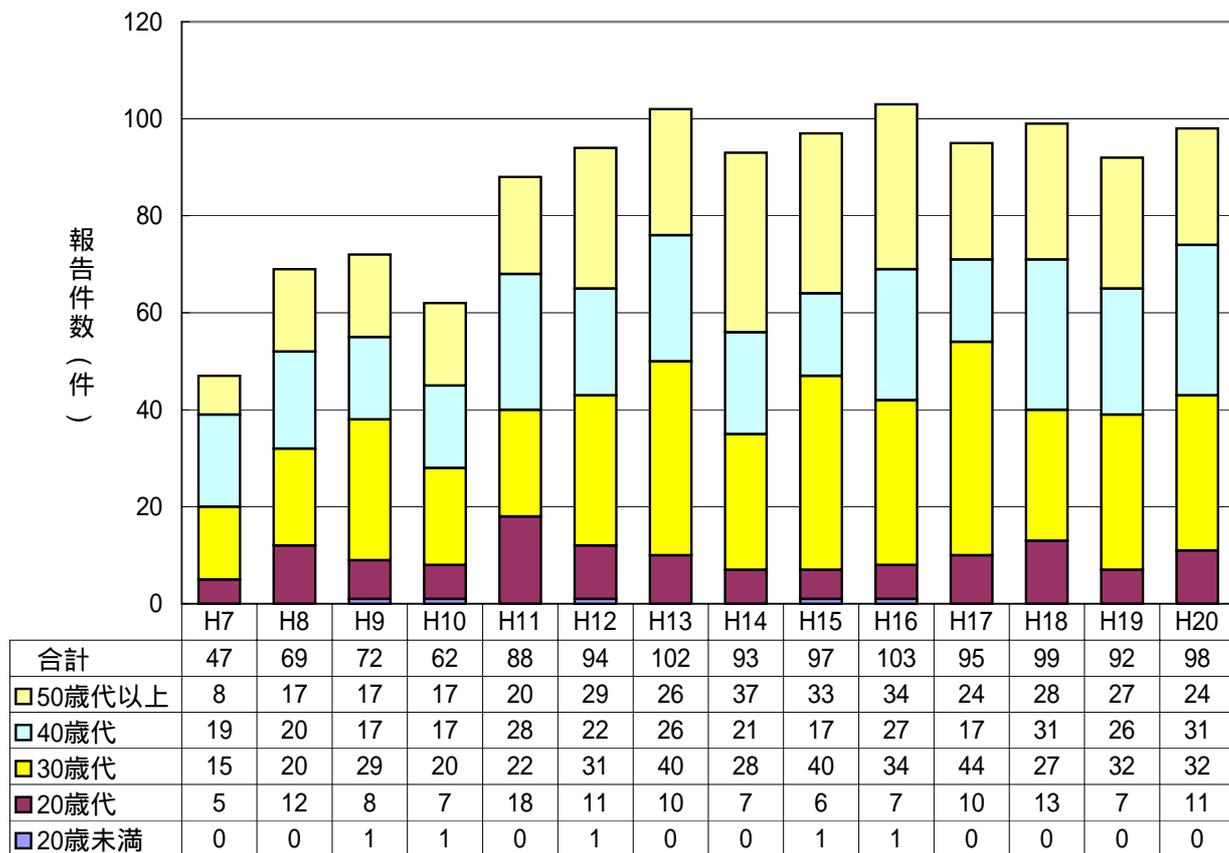
報告数の多い日本国籍男性でみると平成12年以降、常に同性間性的接触による感染報告が異性間性的接触によるものを上回るようになっている。

1-18
東京都の
AIDS患者の
年齢別・推
定感染経路
別報告数
(平成20年)



すべての年代において、異性間性的接触よりも同性間性的接触の割合が同等もしくは大きくなっている。

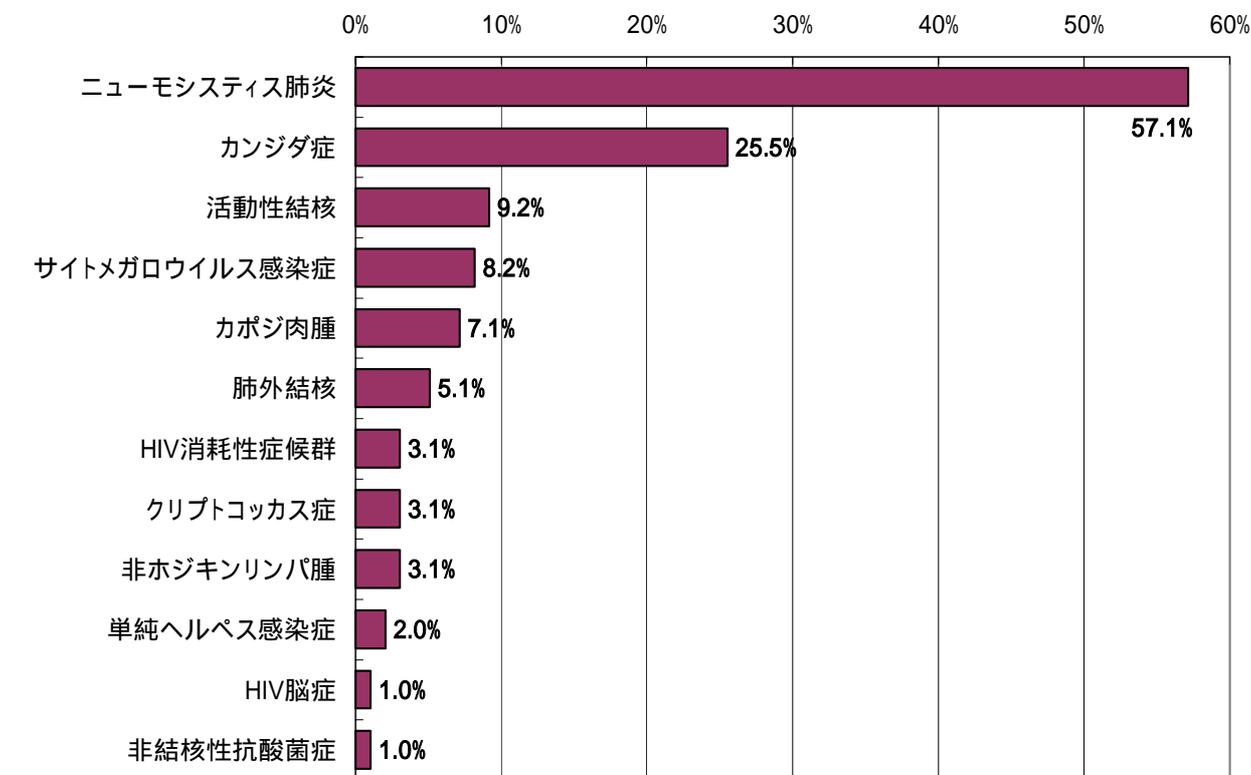
1-19
東京都の
AIDS患者の
年齢別報告
数年次推移



30歳代以上の報告件数が多く、この傾向が続いている。

1-20
東京都の
AIDS指標疾
患
(平成20年)

* 複数回答

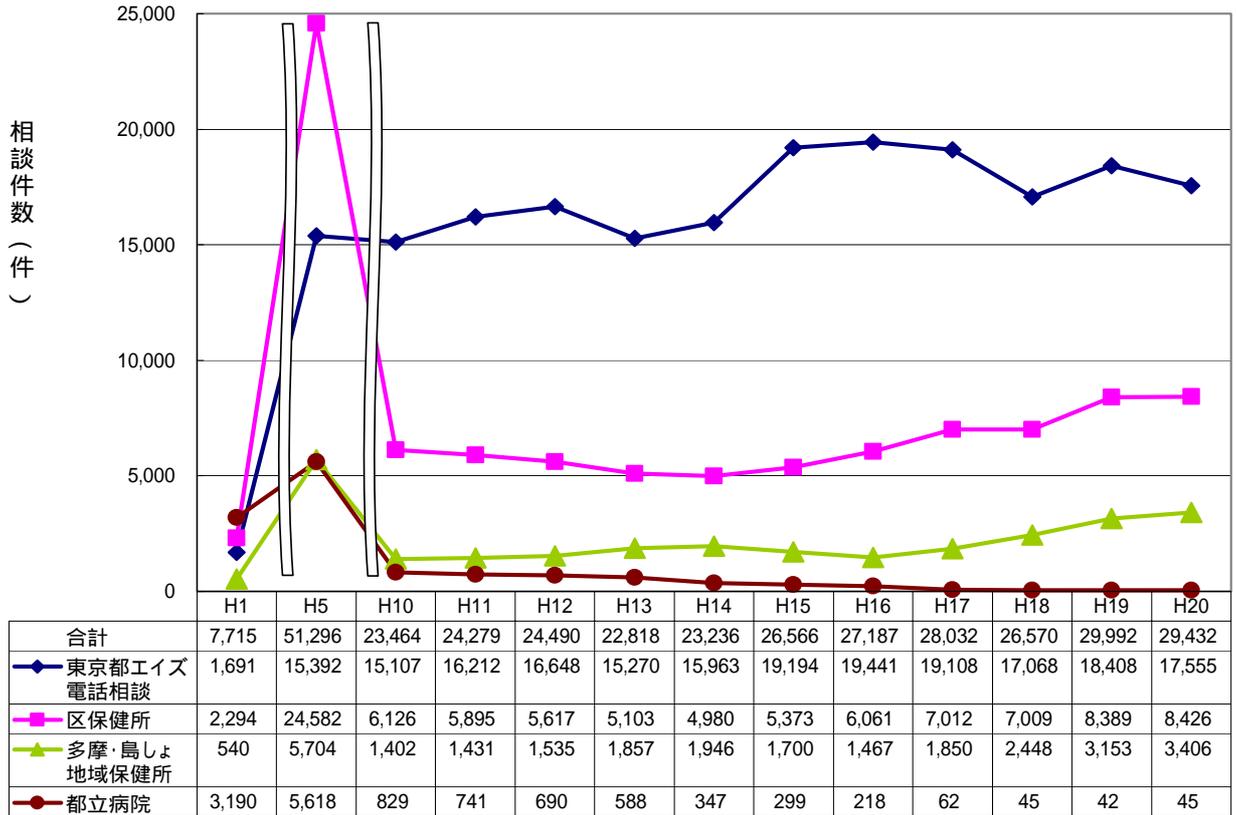


平成20年にAIDS患者と報告された者の約6割が、ニューモシスティス肺炎によりAIDSと診断されている。次いでカンジダ症、活動性結核、サイトメガロウイルス感染症、カポジ肉腫の順で診断されている。

2. 相談・検査・療養体制

[エイズ電話相談]

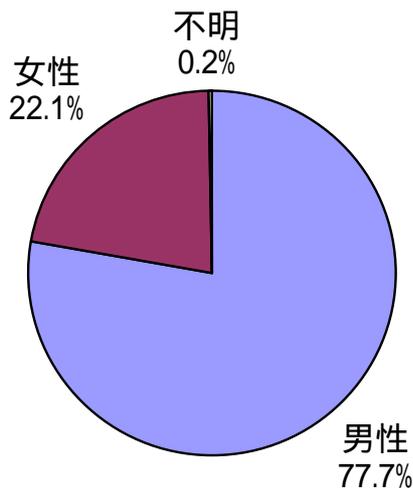
2-1
東京都のエイズ電話相談件数年次推移



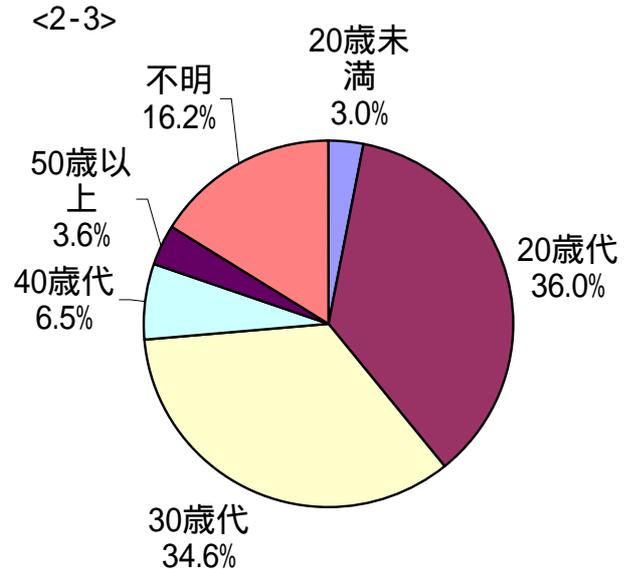
「東京都エイズ電話相談」は、平成10年度以前についてはエイズ対策係で実施していた電話相談の件数を含む。

エイズ電話相談は、エイズが大きな社会問題となった平成4年に一時的に急増した後減少し、平成10年ごろより横ばいであった。この数年保健所での相談件数が増加傾向にある。

2-2
「東京都エイズ電話相談」における相談者の性別 (平成20年)



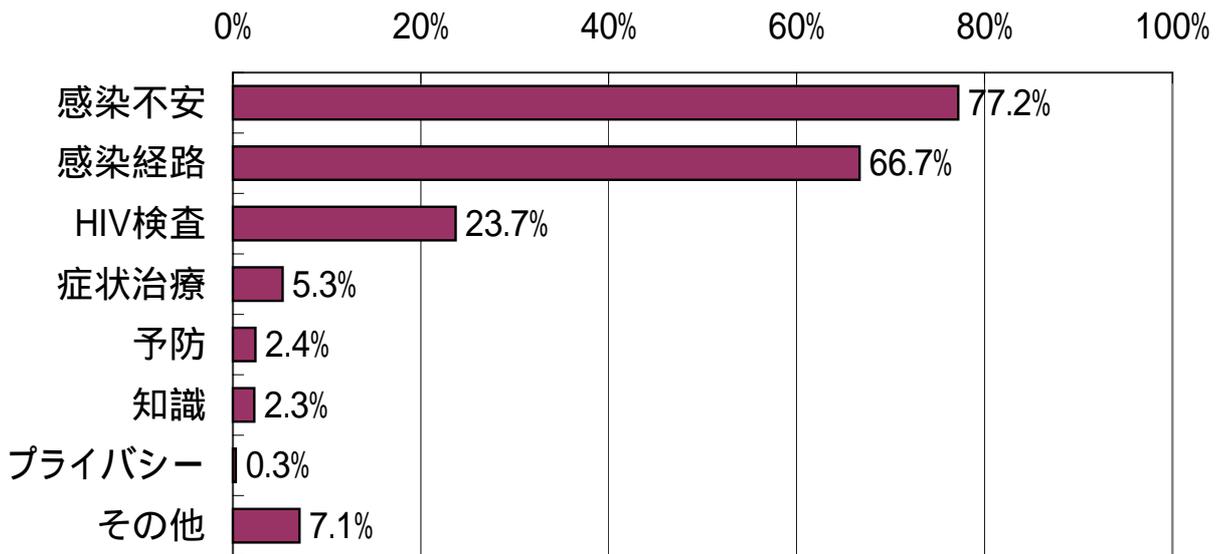
2-3
「東京都エイズ電話相談」における相談者の年齢 (平成20年)



性別については、約4分の3が男性であった。年齢別に見ると20歳代・30歳代が多く、30歳代以下で7割を超える。

2-4
「東京都エ
イズ電話相
談」の相談
内容
(平成20年)

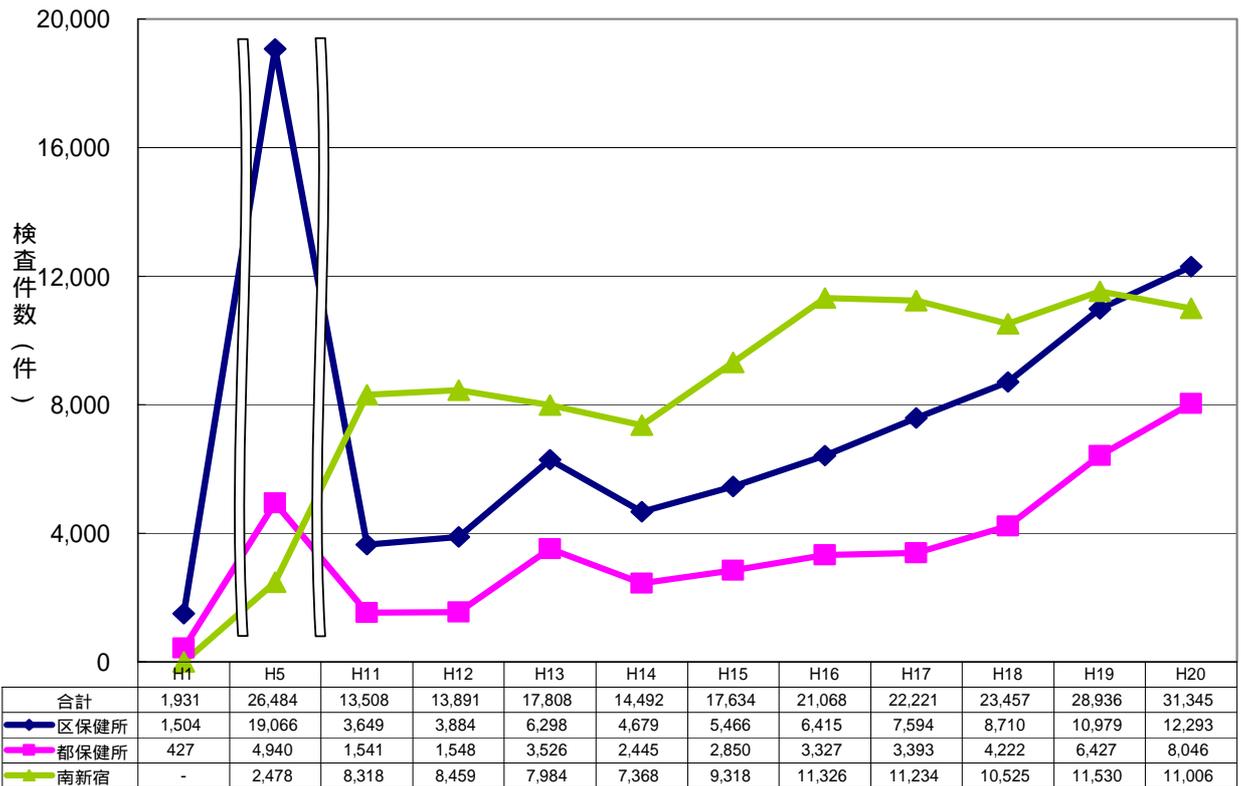
* 複数回答



東京都エイズ電話相談の相談内容は感染不安がもっとも多く約8割を占め、次に感染経路が約7割であった。相談が多岐にわたり、重複する場合もある。

[HIV検査]

2-5
東京都の
HIV検査件
数年次推移

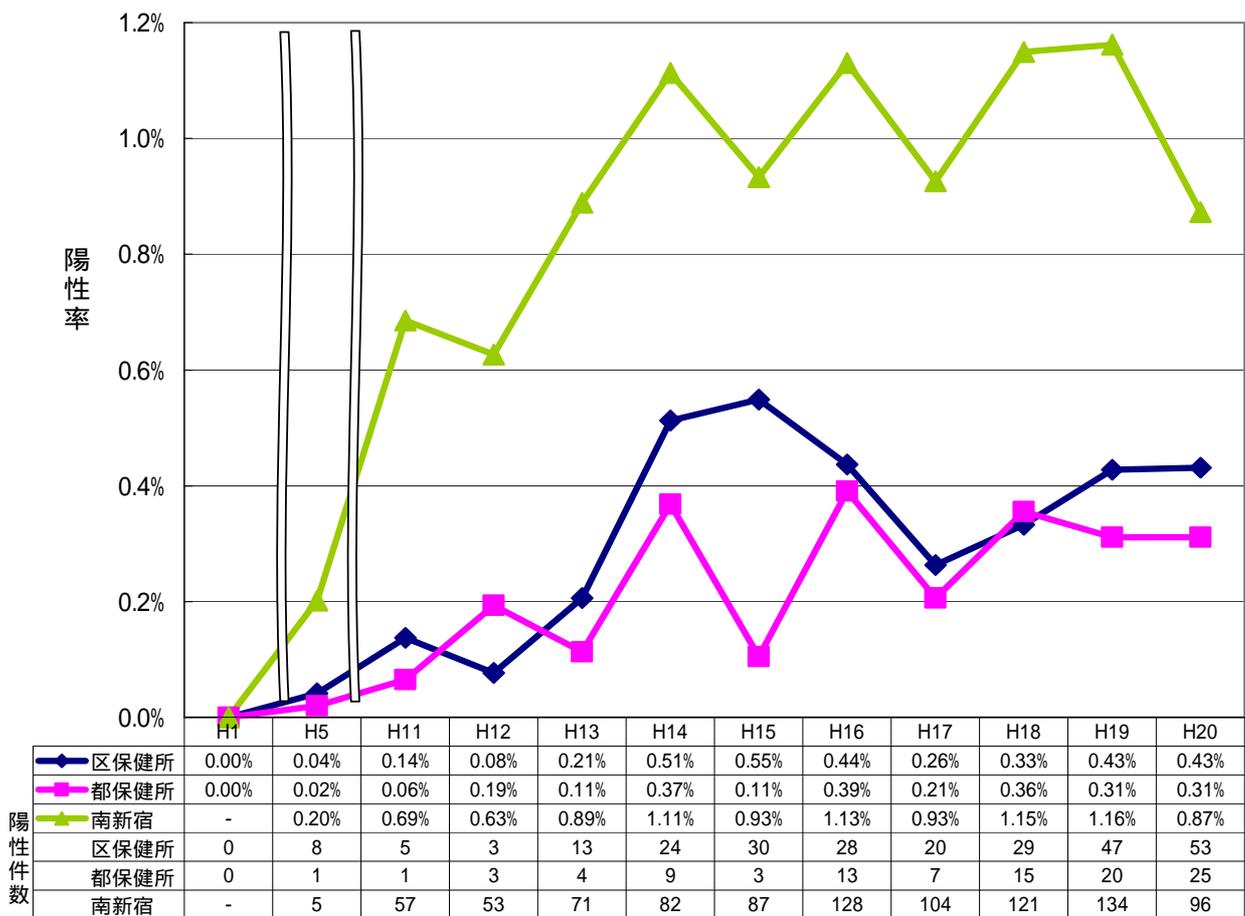


都内の保健所（区、八王子市、都の保健所）の検査件数は、エイズが大きな社会問題となった平成4年に一時的に急増した後、減少した。平成10年ごろより横ばいであったが、平成15年以降増加している。平成20年の都保健所は、平成19年より開始した多摩府中保健所での検査及び多摩地域検査・相談室の毎週実施が定着してきたことから増加した。平成20年の区保健所は、みなと保健所での委託検査開始をはじめ、その他保健所でも増加し、全体として大幅に増加した。

南新宿検査・相談室の検査件数は平成10年ごろから横ばいであったが、土・日曜日の検査を開始した平成15年に増加し、11,000件前後で推移している。

なお、平成13年5月～10月に都内の保健所ではHIV検査時に希望者にC型肝炎ウイルス抗体検査を無料匿名で行ったため、平成13年の都内の保健所の検査件数は一時的に増加した。

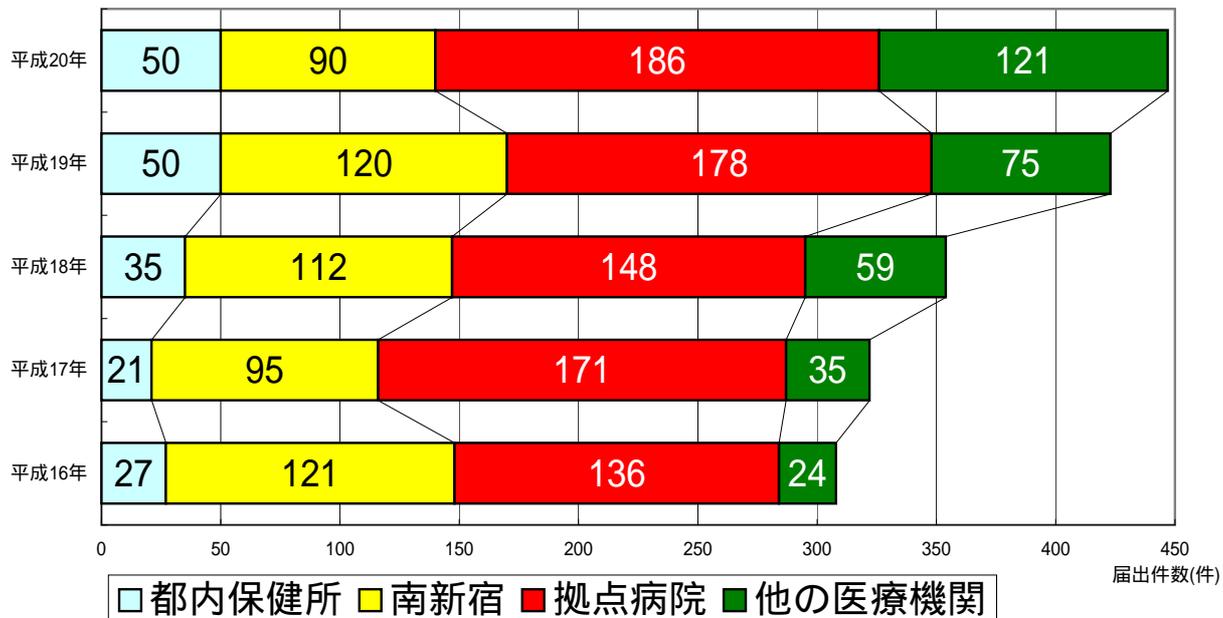
2-6
東京都の
HIV検査に
おける陽性
件数・陽性
率年次推移



平成20年は、この数年の陽性件数が100件以上で推移してきた南新宿検査・相談室が96件となり、陽性率が0.87%と下がった。保健所の陽性率は前年と同様であった。

[医療機関]

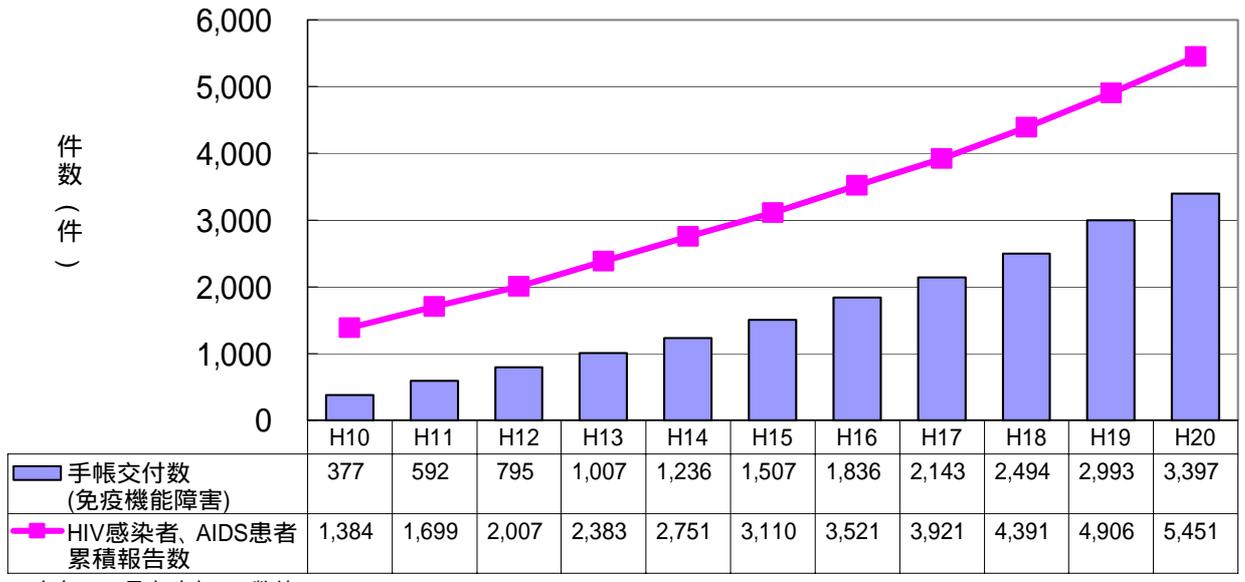
2-7
東京都の
HIV感染者
報告の届出
別割合
(平成16年
～平成20
年)



平成20年の特徴は、エイズ拠点病院以外の医療機関からの届出件数が前年の1.6倍と大きく増加したことである。年ごとにその届出件数は増え、平成16年の5倍となっている。

[身体障害者手帳]

2-8
東京都の
HIV感染者、AIDS患者
累積報告数と身体障害者手帳
(免疫機能障害)交付数
年次推移



各年の12月末時点での数値

HIV感染者、AIDS患者累積報告数の累積件数の増加とともに、身体障害者手帳(免疫機能障害)の交付数も年々増加している。

[性感染症検査]

2-9
東京都内の
保健所、東京都南新宿
検査・相談室での性感染
症検査件数と陽性件数
(平成20年)

		梅毒				淋菌		
		検査数(STS)	検査数(TPHA)	陽性数	陽性率 (STS/陽性数)	検査数	陽性数	陽性率
区保健所	男	4,528	2,123	53	1.2%	1,252	8	0.6%
	女	3,325	1,487	21	0.6%	868	12	1.4%
多摩地域保健所	男	2,585	2,583	30	1.2%	1,720	6	0.3%
	女	1,691	1,676	7	0.4%	1,081	13	1.2%
南新宿	男	1,487	27	27	1.8%	-	-	-
	女	943	2	2	0.2%	-	-	-
		クラミジア						
		検査数	陽性数(IgA)	陽性率(IgA)	陽性数(IgG)	陽性率(IgG)		
区保健所	男	4,957	566	11.4%	866	17.5%		
	女	3,474	576	16.6%	932	26.8%		
多摩地域保健所	男	2,588	173	6.7%	539	20.8%		
	女	1,669	229	13.7%	473	28.3%		
南新宿	男	1,486	176	11.8%	273	18.4%		
	女	943	172	18.2%	278	29.5%		

梅毒の陽性率は男性の方が高い。一方、クラミジアと淋菌の陽性率は女性の方が高い。

3. 世界及び全国のHIV感染者・AIDS患者数

世界のHIV/AIDS流行状況2007年末現在 (UNAIDS/WHO) 日本のHIV感染者、AIDS患者累計数2008年末現在 (厚生労働省)

HIV感染者数(2007 年末現在)

合計	3,320万人 (3,060-3,610 万人)
成人	3,080万人 (2,820-3,360 万人)
女性	1,540万人 (1,390-1,660 万人)
子供(15 歳未満)	250万人 (220-260 万人)

2007年における新規HIV感染者数

合計	250万人 (180-410 万人)
成人	210万人 (140-360 万人)
子供(15 歳未満)	42万人 (35-54 万人)

2007年におけるAIDSによる死亡者数

合計	210万人 (190-240 万人)
成人	170万人 (160-210 万人)
子供(15 歳未満)	33万人 (31-38 万人)

HIV感染者報告の累計数 10,539人

AIDS患者報告の累計数 4,900人

推計値の右の()内の範囲に実際の数値が存在する。推計値・範囲は入手可能な最良のデータを基にして算出された。

発行：東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課エイズ対策係
郵便番号163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-4487 ファクシミリ03-5388-1432
e-mail S0000312@section.metro.tokyo.jp

東京都南新宿検査・相談室（無料・匿名・電話予約）

電話予約制 03-3377-0811

<予約受付時間>

月曜日から金曜日（祝日を除く）：午後3時30分から午後7時まで。

土曜日・日曜日（祝日を除く）：午後1時から午後4時30分まで。

* 聴覚障害をお持ちの方のみ、ファクシミリでの予約申込みができます。

ファクシミリ 03-3377-0821

<窓口受付時間>

月曜日から金曜日（祝日を除く）：午後3時30分から午後7時30分まで。

土曜日・日曜日（祝日を除く）：午後1時から午後4時30分まで。

電話相談 電話 03-3292-9090

月曜日から金曜日：午前 9時から午後 9時まで。

土曜日・日曜日・祝日：午後 2時から午後 5時まで。

エイズに関する相談・検査（匿名・無料）は各保健所へ
（一部、性感染症検査も同時に可能）